

るんびに

第八十四号

楊林山 正 光 寺

波多正文

尼崎市東大物町1-3-7
(06) 6481-3253

「お寺は何のためにあるのですか」

お寺は、歴史遺産として、見学・観光するためにあるのでしょうか？お墓や納骨堂で死者を預かっているだけの場所でしょうか？

いえ、お寺は、いま生きている私たちのためにあるのです。

本来、お寺は、仏の教えを伝道する場所です。そして、その教えを聞き、その教えを喜び、その教えを生きる指針とする門信徒の方がたが、明るく楽しく集う場所です。だから、決して「死」のみに関わる暗い場所ではありません。

また、生真面目で、敷居が高く、肩が凝るところでもありません。仏さまの前で、きれいごとではなく、本音で人生の悩みや愚痴を話せる場所、そして仏法に出遭い、自分の心をやわらかく整える場所、それがお寺です。

お寺は、そういう門信徒の方がたが先祖代々、護り支えてこられた仏教の道場なのです。

だから、葬儀や法事をする事だけが、お寺の務めではありません。お墓や納骨堂の管理をする事だけが、お寺の務めではありません。仏の教え

を聞く仲間の集う場所であること、それがお寺の第一の存在理由です。

お寺では、仏法を聞くための「法座」と呼ばれる集いが、たびたび開かれています。

美容エステやスポーツジムで体を磨かれることも結構ですが、たまには心の内面に目を向け、「心のエステ」のために、お寺にお話を聞きにおいでになりませんか？

そうお誘いしても、足を踏み入れることに抵抗があるのが、お寺の法座だろーと思えます。

まず、エリートと呼ばれる人ほど、「偏差値の高い私が、お寺で坊主の話など聞けるか」と思われるかもしれません。地位や名誉、さらにはお金を求める人は、「抽象的なきれいごとを聞いても、自分の実生活には何の役にも立たない」と思われるかもしれません。

でも、自分の思い込みやイメージだけで既成仏教を敬遠しないで、お寺に足を運んでみてください。そして、「一度行ったけど楽しくなかった」

「一度聞いたけど話がわからなかった」と、再び敬遠してしまわずに、繰り返し話を聞いてみてください。

仏教は即効薬ではありません。一度服用した(聞いた)から効いた(わかった)ということにはなりません。仏さまに心を育てていただくのですから、体質改善薬のように時間がかかります。繰り返し仏法を聞いて、仏さまに出会い、本当の幸せ、やすらぎに、気づいていただきたいと思います。

お寺を「歴史の遺物」にしてしまわないでください。死者に関わる事だけが、お寺の役目だと思

いこまないでください。死んでから初めてお寺に行き、納骨されるのでは、間に合いません。

ぜひ、若いうちに親しい「かかりつけの寺院」「仏法を共に聞く一生の友人仲間」をもってください。

お寺は、生きている私たちが仏に出会い、心をやわらかく整える場所。

そして、安心して生き、安心して死んでゆける生死をこえる教え、仏の願いを聞いてゆける場所。

いま生きているこの私の「いのち」を問う場所が、お寺なのです。



元旦にお参りになられた方々です。

◆ 涅槃会 (お釈迦様が浄土に生まれた日)

二月十日(土) 午後二時～四時

ご講師 吉川光城師

◆ 歎異抄を学ぶ会

毎月第三土曜日 午後二時～三時三十分